

「阿蘇の草原キッズになろう！①秋編」事業報告書

企画指導専門職 安部 信吾

1 事業の概要

- (1) 趣 旨 阿蘇市内の子どもたちに、阿蘇の草原環境の現状を学ばせるとともに、草原維持活動の直接体験を通して、草原環境保全への意識を高めさせる。
- (2) 期 日 平成29年10月5日(木)～6日(金) 【1泊2日】
- (3) 活動場所 阿蘇青少年交流の家・町古閑牧野・小堀牧野・草原学習館
- (4) 参加者 一の宮小学校4年生 84名 引率教師8名 計92名
- (5) 講 師 町古閑牧野組合 組合長 市原 啓吉 氏
小堀牧野組合 組合長 田島 今朝信 氏
- 協 力 環境省阿蘇くじゅう国立公園管理事務所 藤田 幸代 氏
阿蘇グリーンストック 宮野 ひろみ 氏
九州バイオマスフォーラム 吉田 園子 氏
- ボランティア 池田 一之輔 氏 大原 敏久 氏 緒方 謙一郎 氏
平 嘉隆 氏 飯尾 雅嘉 氏
- (6) 担当職員 安部 信吾 (企画指導専門職) 小宮 広明 (事業推進室長)
山下 正晃 (企画指導専門職) 古賀 久恵 (事業推進係員)
志賀 泰成 (事業支援室主任) 宇戸口 健 (事業支援室係員)
- (7) 内 容
【1日目】 ・草原学習 (フィールドワーク・ポスターセッション)
・草泊まり作り ・草原クラフト (押し花コースター)
【2日目】 ・あか牛とのふれ合い (えさやり体験) ・草原クイズラリー ・紙すき体験

2 成果と課題

- (1) 成 果
- 「草原の草花がたくさん知れてよかった。」「草泊まり作りは大変だったけれど、みんなで協力してできて楽しかった。」「エサをあげて、牛のペロがざらざらしているのがわかった。」等の参加者の感想から、体験を中心とした学習プログラムにしたことで、日常生活ではできない体験を通して、充実した活動ができた様子がうかがえた。また「草原をもっとたくさん使って、阿蘇の草原を増やしたいと思った。」「牛の生態についてもっと知りたいと思った。」等、今回の体験学習が、参加者の今後の草原学習につながるものとなったようだった。
 - 各関係団体と連携し、講師としてそれぞれの分野から詳しくわかりやすく説明をしていただき、充実した草原学習をすることができた。
 - 途中降雨があったが、スタッフ・ボランティア・学校職員間で臨機応変に対応することができ、計画した活動のほとんどを実施することができた。
- (2) 課 題
- プログラムに余裕がなく、予定していた時間内で活動を終えることができなかった。児童の実態に応じたプログラムを計画するとともに、活動の様子を見ながらボランティアさんにもそれぞれの活動終了時刻を無線で連絡できるようにしておく必要があった。
 - 町古閑牧野でトイレに行きたくなる児童が多かった。簡易トイレの設置などについて今後検討する必要がある。
 - 学校と連携し、2月に予定している「阿蘇の草原キッズになろう！野焼き編」につなげ、草原学習を深められるようにしたい。

3 事業の様子



市原啓吉さんの話



草原フィールドワーク（草花探し）



草泊まりについての話



草泊まり体験



草の紙づくり体験



エサやり体験



草原クイズラリー



紙すき体験